

徐災獣・御札・
護符で疫病退散！

令和4年度福島県歴史資料館収蔵資料展

疫病に負けるな！

—ふくしまの近世・近代疫病史—

入館無料

令和4年 9月3日(土) ▶ 12月11日(日)

会期中展示替えあり 前期 9/3 ~ 10/23・後期 10/25 ~ 12/11



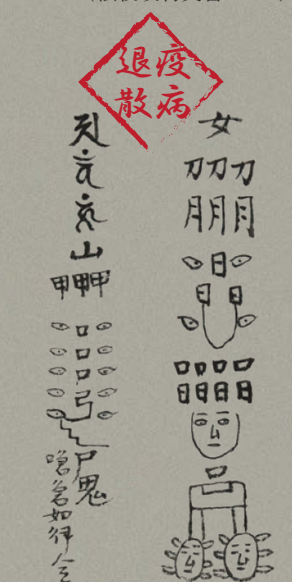
疫病退散

元三大師札
(個人蔵)



▲ 天然痘患者を診察する様子「麻疹必用一名痘疹年代記」(庄司家文書(その2) 3357)より

疫病はらふ符
(桧枝岐村文書 1224)



〔主催〕



公益財団法人
福島県文化振興財団

〔解説会〕

9/10(土)・10/10(祝)・
11/3(木)・12/4(日)
各回とも13時
要事前予約制(先着15名まで)
詳しくは下記連絡先まで

〔休館日〕

9/12(月)・9/26(月)・
10/3(月)・10/24(月)・11/7(月)

〔開館時間〕

午前9時~午後5時
(入館は午後4時30分まで)

〔会場〕

福島県歴史資料館展示室
(とうほう・みんなの文化センター内)



福島県歴史資料館

〒960-8116 福島県福島市春日町 5-54

福島県歴史資料館

検索

TEL: 024-534-9193 FAX: 024-534-9195
E-mail: history@fcp.or.jp



※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会期・休館日を変更する場合があります。

疫病に負けるな！

—ふくしまの近世・近代疫病史—

新型コロナウイルス感染症の流行は、疫病（伝染病・感染症）対策について再考する契機となり、かつての疫病への対応にも注目が集まりました。本展示では、主に江戸・明治時代の疫病に関する資料を取り上げ、ふくしまに流行した疫病や、伝存している疫病に関する情報などを通して、人々がどのように疫病と向き合い、いかにして乗り越えてきたのかを振り返ります。



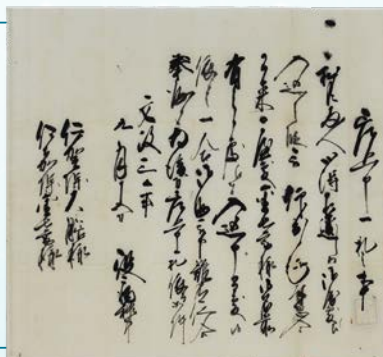
◀ 曼公翁秘傳 痘唇舌口訣 〔江戸後期〕 庄司家文書（その2）3370

中国の医師である戴曼公が伝授したとされる医書です。唇舌による天然痘の診察法を図説し、唇18図・舌41図ごとの症状の度合いや治療法、予後について指摘しています。

▶ 差上申一札之事（役病神託証文）

文政3年（1820）9月15日 朝倉一郎家文書17

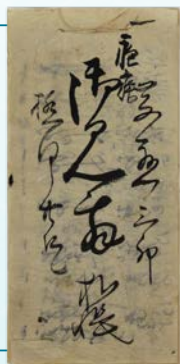
旗本の仁賀保家屋敷で捕まった疫病神らが、命を助けられた代わりに差し出した「疫病神の詫び証文」です。この証文や、「仁賀保金七郎」の名前がある所に疫病神は来ないとされ、疫病除けとして流行しました。



◀ 疱瘡御見舞扣帳

慶応3年（1867）極月24日 五大院文書（その2）758

天然痘にかかったおいま（14歳）の快復を祈り、親戚・近所の人々がお見舞いとして届けた品々の一覧です。金銭が大半ですが、餅・納豆・春雨・午房などの食品や、塩釜・飴・金平糖などのお菓子がみられます。



▶ そたてくさ（『諸綴込』所収）

明治2年（1869）9月 明治・大正期の福島県庁文書919

医学校兼病院（東京大学医学部の前身の一つ）種痘館幹事を務めた久我真道（克明）による出版物です。天然痘の予防接種である牛痘種痘の歴史と効用を説いた啓蒙書です。



◀ 明治十五年虎列刺病流行紀事

明治16年（1883）12月 青砥惣一郎家文書550

福島県衛生課の出版物で、県内で大きな被害をもたらした明治15年コレラ流行の記録です。発生から各郡蔓延に至る過程や、県内に出された達・諭達、治療方法などについて詳述しています。



▶ 〔赤痢発生ニ付臨時清潔法実施ノ件〕

明治31年（1898）9月25日 湯ノ花区有文書51

舘岩村（現南会津町）村長の赤松文作が、村内の赤痢患者発生時に出した達です。屋内外や下水などにおける清潔法徹底を通知しています。明治時代には赤痢の予防に力が注がれました。

